
化学物質等安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名	: アマダンSSミッション
推奨用途	: 工業用ギア油
会社名	: 株式会社アマダ
住所	: 神奈川県伊勢原市石田200 TEL:0463-96-1111(代)
お問い合わせ先 および緊急連絡先	: オイルセンター 技術グループ TEL:048-710-4510 FAX:048-710-4517

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
水生環境有害性(急性)	: 区分3
GHSラベル要素	
シンボル	: なし
注意喚起語	: なし
危険有害性情報	: 水生生物に有害
注意書き (予防策)	: 環境へ放出を避けること
(対応)	: -
(保管)	: -
(廃棄)	: 廃液、容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託して下さい。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	: 混合物
化学名又は一般名	: 石油系炭化水素及び添加剤
別名	: Lubricating oil (Petroleum hydrocarbons and additive)
化学特性(化学式)	: 特定できない
成分および含有量	: 潤滑油基油 90～100質量%
	: リン酸、ビス(2-エチルヘキシル)エステル 0.1～1.0質量%
	: リン酸、モノ(2-エチルヘキシル)エステル 0.1～1.0質量%
	: 2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール 0.1～1.0質量%
	: モノアルキルアミン <0.25質量%
	: その他添加剤 残部
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	: 企業秘密なので記載できない
CAS No.	: 企業秘密なので記載できない
危険有害成分	
化学物質管理促進法	: 対象物ではない
労働安全衛生法	: 第57条の2 通知対象物 政令番号 第168号 鉱油:90～100質量%
	: 第57条の2 通知対象物 政令番号 第262号 2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール:0.1～1.0質量%
毒性劇物取締法	: 対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合	: 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の手当、診断を受けること。気分が悪いときは、医師の手当て、
--------	---

皮膚に付着した場合	: 診断を受けること。 皮膚を速やかに洗浄すること。水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合や気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合や気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。吐かせないこと。医師の手当て、診断を受けること。 気分が悪いときは、医師の手当て、診断を受けること。
予想される急性症状および遅発性症状	: 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。
応急処置をする者の保護	: 現在のところ有用な情報なし
医師に対する特別注意事項	: 現在のところ有用な情報なし
<hr/>	
5. 火災時の措置	
消火剤	: 粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤	: 棒状注水は火災を拡大し、危険な場合がある。
特有の危険有害性	: 加熱により容器が爆発する恐れがある。火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断つ。周囲の設備等に散水して冷却する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は風上から行い、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
<hr/>	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	: 作業の際には、必ず保護具を着用する。
環境に対する注意事項	1. 河川、下水道等に排出されないように注意する。 2. 海上の場合、薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
除去方法	3. 周辺の着火源を取り除く。 4. 少量の場合は、土砂、ウエス等に吸収させ回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。 5. 大量の場合は、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。漏洩した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収する。 6. 海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マット等で吸い取る。薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
二次災害の防止策	1. 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。 2. 周辺の着火源を取り除く。
<hr/>	
7. 取り扱い及び保管上の注意	
取り扱い	
技術的対策	1. 指定数量以上の量を取り扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。

	2. 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
	3. 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
	4. 危険物が残存している機械設備などを修理、又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。
	5. 容器から取り出す時は、ポンプなどを使用すること。細管を用いて口で吸い上げてはならない。飲まない。
	6. 皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。
	7. ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。
	8. 容器は必ず密閉する。
注意事項	: 石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため、換気及び火気等への注意が必要である。
安全取り扱い注意事項	1. 常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意する。 2. ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
保管	
適切な保管条件	1. 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。 2. 陰物の表示をして保管する。 3. 熱、スパーク、火災並びに静電気蓄積を避ける。
適切な技術的対策 注意事項	: 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。
安全な容器包装材料	1. 空容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。 2. 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	: ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 取扱場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	: 設定されていない(作業環境評価基準:厚生労働省告示第369号、平成16年10月1日)
許容濃度	: 日本産業衛生学会(2004年度版): 3mg/m ³ (鉛油ミストとして) ACGIH(2004年度版): 時間荷重平均(TWA)値: 5mg/m ³ (鉛油ミストとして)
保護具	呼吸器用の保護具 : 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。 手の保護具 : 長期間又は繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。 目の保護具 : 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。 皮膚及び身体の保護具 : 長期間にわたり取り扱う場合又は濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。
適切な衛生対策	: 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状態	
物理的状態、形状、色など	琥珀色 液体
臭い	特有
pH データなし	データなし
融点・凝固点 データなし	データなし
流動点	- 17.5
沸点、初留点及び沸点範囲	データなし
引火点	212 (COC)
爆発範囲	下限: 0.9容量%(推定値) 上限: 7容量%(推定値)
蒸気圧	データなし
蒸気密度(空気 = 1)	データなし
比重(密度)	約0.867g/cm ³ (15)

溶解度	水に不溶
オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の条件では安定
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける
避けるべき条件	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
混触危険物質	現在のところ有用な情報なし
危険有害な分解生成物	現在のところ有用な情報なし

11. 有害性情報

暴露経路	結論/備考
吸入	
毒性 (ラット): LC50 > 5000 mg/m3	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
炎症: 評価項目データなし	常温/通常取り扱い温度では、無視できる有害性しかない。類似構造物質の試験データに基づく
摂取	
毒性 (ラット): LD50 > 5000 mg/kg	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
皮膚	
毒性 (ウサギ): LD50 > 5000 mg/kg	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく
炎症 (ウサギ): データ有り	常温では、皮膚の炎症は殆ど起きない。組成物質の評価に基づく
眼	
炎症 (ウサギ): データ有り	眼に、短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。組成物質の評価に基づく

短長期暴露による他の健康有害性

ヒトでの経験や実験データから、亜慢性、慢性の呼吸器系又は皮膚感受性、変異原性、生殖毒性、発がん性、標的臓器毒性(単回暴露又は反復暴露)、吸引毒性その他の健康影響が予想される。

内容物:

高度精製基油: 動物実験で発癌性なし。代表製品においては、IP-346、修正AMES試験及び他のスクリーニングテストにも合格している。皮膚への塗付、吸入での研究では、最小の影響であることが示されている; 肺に対し、免疫細胞の特定の浸潤、オイル沈着及び最小の肉芽腫もない。また、実験動物において感作性はない。

IARC 分類 (グループ1, グループ2A, グループ2B) : 該当しない

12. 環境影響情報

ここに示す情報は、この物質、成分および類似物質のデータに基づいている。

生態毒性

物質 -- 水中生物に有毒であると予測される。

移動性

基油(ベースオイル)成分 -- 本物質は、溶解度が低く、浮遊し、水中から陸地に移動することが予測される。汚泥ならびに汚水固形物として分離し得る。

残存性および分解性

生物分解

基油(ベースオイル)成分 -- 本質的に生分解性と予測される。

生体内蓄積の可能性

基油(ベースオイル)成分 -- 生態蓄積の可能性を有するが、代謝あるいは物理的特性により、生体内濃度を低下させたり、生体利用効率を制限させたりすることもある。

生態学的データ

組成	急性水生毒性
モノアルキルアミン	L(E)C50 >0.01 - 0.1 mg/L

13.廃棄上の注意

1. 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
2. 投棄禁止
3. 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
4. 燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

14.輸送上の注意

国内規制

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上	消防法 労働安全衛生法	第4類 第4石油類 危険等級 通知対象物
海上	船舶安全法	非危険物 個別運送及びばら積み運送において
航空	航空法	非危険物
国連分類		国連の分類基準に該当せず
国連番号		該当なし
追加の規制		現在のところ有用な情報なし
輸送の特定の安全対策及び条件		

1. 可燃物なので「火気厳禁」。
2. 容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬する。
3. 指定数量以上の危険物を車輛で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車輛に標識を備える。又、この場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。
4. 第1類及び第6類の危険物及び高压ガスを混載しない。

15.適用法令

消防法	危険物第4類第4石油類(非水溶性)
労働安全衛生法	通知対象物
海洋汚染防止法	油分排出規制(原則禁止)
化学物質管理促進法	該当しない
下水道法	鉱油類排出規制(5mg/L)
水質汚濁防止法	油分排出規制(5mg/L 許容濃度) ノルマルヘキサン抽出分として検出される
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規則(拡散、流出の禁止)

16.その他の情報

参考資料

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として

取り扱う事業者提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。
